

カキ「太秋」の袋かけによる汚損果軽減技術			
<p>[要約]</p> <p>カキ「太秋」は、着色始期の9月上旬にカキ用果実袋（白色）を被覆すると、条紋による果実汚損が軽減され外観が向上する。また、袋かけによる着色や内部品質への影響はみられない。</p>			
茨城県農業総合センター園芸研究所	平成24年度	成果区分	技術情報

1. 背景・ねらい

近年、カキ「太秋」は食味が優れていることから生産者の関心が高く、徐々に導入が進んでおり、直売による販売が行われている。

「太秋」は条紋の発生が非常に多く、着色期から収穫期にかけて条紋由来による汚損果が発生して、果実外観が低下しやすい。

そこで、袋かけが果実外観および品質に及ぼす影響について検討し、汚損果の軽減対策を確立する。

2. 成果の内容・特徴

1) カキ「太秋」は、着色始期の9月上旬にカキ用果実袋（白色）を被覆すると、汚損の無い外観良好な果実を多く収穫できる（図1、2）。

2) 袋かけの有無と汚損果の発生果実割合をみると、「汚損無し」は袋かけ有りで48%、袋かけ無しでは12%であり、「汚損少」は袋かけ有り、無しともに40%である（図2）。一方、「汚損多」の果実の割合は袋かけ有りで12%、袋かけ無しで48%であり、袋かけにより汚損が軽減される（図2）。

3) カキ用果実袋（白色）の袋かけは、一果重、果皮色、硬度、糖度などの果実品質に影響を及ぼさない（表1）。

3. 成果の活用面・留意点

1) 本成果は、カキ用白色袋（K社製）を使用したものであり、袋かけを行う場合はカキ専用の果実袋を使用する。

2) 袋かけを行っても条紋は発生するが、条紋が黒変するような汚損果は著しく減少する。

3) 本成果は平棚栽培によるものであり、「太秋」の満開日は6月1日、収穫期は11月8日～21日である。

4) カキ「太秋」は県内で5ha程度（平成23年）栽培されており、袋かけによる汚損果軽減技術は、県下全域で適応できる。

4. 具体的データ



袋かけ (9月7日)

袋かけ無し

図1 カキ「太秋」の袋かけによる果実外観向上

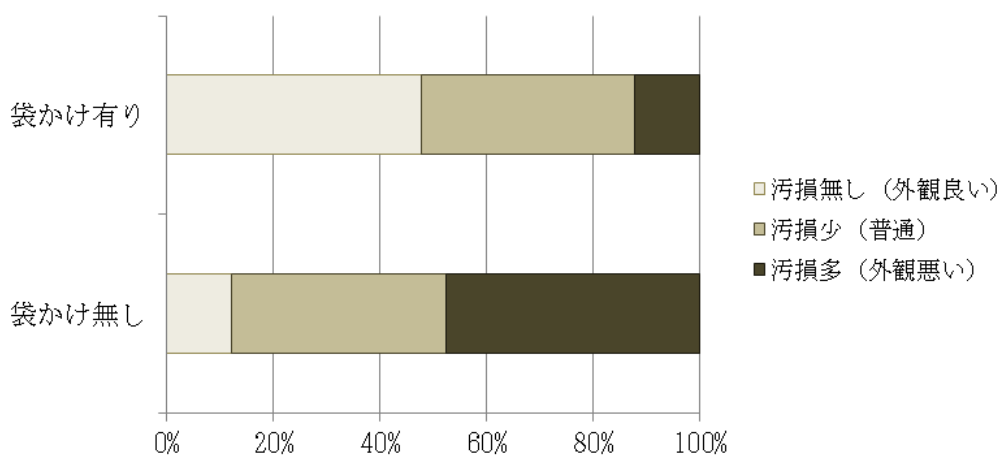


図2 カキ「太秋」への袋かけの有無と汚損果発生割合 (平成24年)

注) 袋かけ期間は9月7日～収穫11月12日まで

表1 袋かけ¹⁾がカキ「太秋」の外観および果実品質に及ぼす影響 (平成24年)

処理区	一果重 g	果皮色 ²⁾			硬度 lbs	含核数 個	糖度 Brix%	汚損程度 ³⁾
		果頂部	赤道部	へた部				
袋かけ有り	409	5.7	5.0	4.7	6.7	0.6	17.1	0.6
袋かけ無し	414	5.7	6.2	4.8	6.6	0.6	17.0	1.4

1) 袋かけ処理は9月7日、収穫は11月12日

2) 果皮色はカキ用果実カラーチャート値

3) 汚損程度は、0:汚損無し (外観良い)、1:汚損少 (普通)、2:汚損多 (外観悪い) で区分した65果の平均値

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹推奨品種決定と生態収量予測・平成20年度～・果樹研究室